

指定管理者制度導入施設の管理運営状況等に関する評価表
(評価対象年度:令和4年度)

<施設概要>

施設	グリーンホール
施設の設置目的	市民の自主的な文化活動の場を提供するとともに、芸術文化活動の振興を図る
指定期間	平成31年(2019年)4月1日～令和11年(2029年)3月31日
指定管理者	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
所管部署	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課

<施設の過去3箇年の主な管理実績>

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用者数	2万9977人	5万8606人	13万5674人
事業参加者数	4263人	1万3214人	2万4859人
貸出施設稼働率	63%	68%	85%
指定管理料(市決算額)	1億6378万9346円	1億4300万6714円	1億3969万5117円
利用料金収入	288万117円	1809万6495円	3496万930円

<指定管理者における全体総括>

令和4年度は、地域の文化拠点として、文化会館づくり、グリーンホール及びせんがわ劇場の3施設の一体的な活用を推進し、コロナ禍にあっても、市民の活動が活気づく兆しの見られた1年において、その一翼を担う文化芸術の振興に取り組みました。

事業運営では、東京2020大会のレガシー継承のため、引き続き、財団独自のテーマである「100年後の君へ。」を掲げ、文化芸術、生涯学習、コミュニティ各事業において、共生社会の充実、次世代への伝統文化の継承、地域の文化資源の活用、次世代を担う芸術家・鑑賞者の育成などに取り組みました。

特徴的な取組としては、若い世代向けにサクソやドラムを入れた編成でコンサートを実施し、せんがわ劇場との連携により、公演前に市内の小学校へのアウトリーチを行い、子どもたちに身近に演奏に触れる機会を提供しました。また、市内の聴覚障害者団体等と連携して「絵ばなし寄席」に手話や字幕をつけて実施したほか、市内の特別支援学校の生徒を招待したコンサートでは、リズムに特徴のある楽曲の鑑賞や手拍子などでの参加を通して音楽を楽しむ文化的な体験と、身近な施設で地域とのつながりを感じる社会的な体験を提供するなど、共生社会の充実に努めました。

施設管理運営では、マスク着用や手指消毒、健康状態の確認など利用者にも基本的な感染拡大防止に向けた取組への協力を求めながら、安全・安心な施設運営に努めました。また、窓口での対応やアンケートなど多様な手段により、利用者の声の反映に努めたほか、適切な維持管理による施設の長寿命化と積極的な省エネルギー化により、ライフサイクルコストの縮減に取り組みました。

組織運営では、多様な働き方と効率的な事務遂行のため、業務のペーパーレス化やオンライン化を推進しました。また、総合的なスキルを備えたアートマネジメント人材の育成に引き続き取り組みました。

財務会計については、新型コロナウイルス感染症による影響の長期化と急激な物価高騰による収支への影響に対して、適切な執行管理と事務経費の縮減、自主財源の拡充に努めました。

＜施設の管理運営等に関する評価(各評価区分の考え方は下段の「評価の目安」を参照)＞

業務の実施体制	確認項目	確認欄
	業務マニュアルの整備(職員への周知含む)	(有(更新) 有 無)
	緊急時におけるマニュアル・連絡体制の整備(職員への周知含む)	(有(更新) 有 無)
	職員の育成(研修・緊急時対応等の訓練)の実施	(実施 ・未実施)
	<評価におけるその他の視点> ・個人情報保護及び情報漏洩防止のための措置 ・職員の勤務条件・待遇における関係法令の遵守 ・協定書等を遵守した業務の再委託 など	・適切な人員配置 ・適時適切な市との情報共有
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)	評価(b~d)
市の施策を踏まえ、関連分野と連携しながら文化芸術振興に向けた取組を推進するアートマネジメント人材を育成するため、文化・芸術分野の実務研修や職層に応じた研修を体系的に実施した。 また、市との連携の下、組織の活性化及び市民サービスの向上を図るため、目標管理型人事評価制度を正式に導入した。 平成24年に策定した事業継続計画を適宜更新しながら、非常時の業務体制等を確立していくとともに、消防署より認定された「優良防火対象物」の管理者として、財団職員を中心として、事業者及び委託業務スタッフを対象に、消防訓練を実施した。 新型コロナウイルス感染拡大防止対策においては、利用人数等の制限や施設の利用キャンセルに伴う利用料金の還付など、市及び関係機関との情報共有や連携の下、迅速に対応した。		b

評価の目安(b~d)

- b: マニュアル整備や研修等が適切に実施されており、その他、協定内容や関係法令等が遵守されている。
- c: マニュアル整備や研修等の実施、協定内容や関係法令等の遵守について一部改善を要する点がある。
- d: 業務の実施体制について、抜本的に改善が必要なものがある。

施設の維持・管理	確認項目	確認欄
	施設・設備についての保守点検の実施	(実施 ・未実施)
	施設・設備に不具合等があった場合の修繕等の実施	(不具合等 有 (42件(うち対応42件))・無)
	備品の適切な管理(台帳との照合)	(実施 ・未実施)
	<評価におけるその他の視点> ・利用者の安全確保対策 ・適切な衛生管理(清掃対応、感染症対策など) ・指定管理者として必要な保険への加入 など	
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)	評価(a~d)
設備不具合の早期発見・早期対応により、建物全体の長寿命化を図るため、日常・定期点検を積極的に実施し、42件の修繕を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「調布市公共施設の開館・利用における感染拡大防止ガイドライン」に基づき、来館者への周知や施設の収容率の制限等を確実に実施した。		b

評価の目安(a~d)

- a: 施設・設備の点検や修繕等への適切な対応に加え、先進的な対策の導入など、優れた安全対策や維持保全などが行われている。
- b: 施設・設備の点検や修繕や備品管理、安全対策などをはじめ、施設の維持・管理が適切に実施されている。
- c: 施設・設備の点検や修繕等の施設の維持・管理について一部改善を要する点がある。
- d: 施設の維持・管理について、抜本的に改善が必要なものがある。

確認項目	確認欄
計画した事業(サービス)の実施	(計画どおり) ・ 一部未実施 ・ 多くが未実施)
利用者数の状況(前年度比較)	(前年比5%超増) ・ 同水準(±5%) ・ 前年比5%超減)
貸出施設稼働率の状況(前年度比較)	(前年比5%超増) ・ 同水準(±5%) ・ 前年比5%超減)
新たなサービス(事業)の実施	(有) (3件) ・ 無)主な実施内容:「絵ばなし寄席」, 特別支援学校と連携実施した「劇場から地域へつながるプロジェクト(共生社会コンサート)」, 施設利用料金支払いのQRコード決済の導入
サービスの見直し(利用方法・事業回数・時間帯等)の実施	(有) (2件) ・ 無)主な実施内容:年度内2回目の「絵ばなし寄席」で字幕・手話通訳実施, 「ホールであなたもピアニスト!」申込方法の変更(抽選)
職員の接遇態度(言葉遣い, 態度, 服装, 問合せへの対応等)	(優れている) ・ (普通) ・ 要改善)
サービスの提供 <評価におけるその他の視点> ・利用者にとって分かりやすい施設利用案内や事業等に関する情報提供 ・施設の設置目的に沿ったサービスの提供及び事業の実施 ・協定書等に基づく施設の開館日・開館時間の遵守 ・利用申請等に対する迅速な対応 ・利用者に対する附帯設備・備品等の適切な提供 ・利用者からの苦情や要望等に対する適切・迅速な対応及び市への報告 ・施設の利便性向上・利用促進に関する取組 ・利用者満足度アンケート調査等の結果 など	
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)
施設の利用率は、85%であり、施設の利用停止を伴う改修工事や新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた影響により前年度比で大幅に増加している。施設利用者アンケートによる満足度(「どちらかといえば満足」を含む)は98.3%であり、前年度と同程度の高い水準を維持している。 文化施設3館で行われる各種財団事業の運営ほか、モニタリングサポートやアクセシビリティサポートにおいても活躍いただく「アートサポーターズ」について、引き続き、活動内容の充実や活動場所の拡大を図った。 新たに実施した「劇場から地域へつながるプロジェクト」は、特別支援学校の生徒をグリーンホールに招待し、ピアノ演奏を鑑賞する等の文化芸術に触れる機会を提供するものであり、文化芸術活動を通じて共生社会の充実につながるほか、次代を担う世代が文化芸術活動へ関心をもつきっかけとなる取組である。 また、利用者の利便性を高める取組として、令和4年度から施設利用料金の支払い方法にQRコード決済を導入した。	a

評価の目安(s~d)

- s: サービスの提供(施設利用, 事業実施など)について, 特に優れた実績がある。
- a: サービスの提供(施設利用, 事業実施など)が適切に実施され, かつ, 前年度実績を上回る実績が複数あるなど, 優れた実績がある。
- b: サービスの提供について協定書等の内容に基づき, 概ね適切に実施できている。
- c: サービスの提供について協定書等の内容に基づく対応が実施されていないものが散見され, 一部改善を要する点がある。
- d: サービスの提供について, 抜本的に改善が必要なものがある。

財務 の 状 況	確認項目		確認欄
	収支計画を踏まえた実績	利用料金収入	(計画比+5%超 ・ 同水準(±5%) ・ 計画比-5%超)
		支出総額	(計画比+5%超 ・ 同水準(±5%) ・ 計画比-5%超)
	収入(指定管理料を除く)の状況(前年度比較)		(前年比5%超増 ・ 同水準(±5%) ・ 前年比5%超減)
	収入確保や経費縮減の取組		(有 ・ 無) 主な取組内容: 事業収入及び外部助成金による自主財源の増加、施設管理費の節減
	<評価におけるその他の視点> ・指定管理料の適切な管理(帳簿等の整備) ・利用料金等に関する適切な収納及び還付事務の実施 など		
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)		評価(s~d)
日本芸術文化振興会の助成金を獲得したほか、用途を限定しない寄附金については、各事業において寄附の呼び掛けの場を設けるなどの取組を実施した。 新型コロナウイルス感染拡大防止のための利用キャンセルに伴う利用料金の全額還付を行ったことによる利用料金収入の減少及び燃料価格の急激な高騰に伴う光熱水費の上昇に対応するため、財団と協議を行い、指定管理料の追加交付を行った。		a	

評価の目安(s~d)

- s: 収支計画等に基づく適切な運営等の実施に加え、収入増加や経費縮減に関して、特に優れた対応・実績が見られる。
a: 収支計画等に基づく適切な運営等の実施に加え、収入増加や経費縮減に関して、優れた対応・実績が見られる。
b: 収支計画等に基づく適切な運営が概ね実施できている。
c: 収支計画等に基づく適切な運営や、その他財務に関連する取組に一部改善を要するものがある。
d: 収支計画等に基づく適切な運営や、その他財務に関連する取組に関して抜本的に改善が必要なものがある。

そ の 他	確認項目		確認欄
	地域等との連携による取組の実施		(実施 ・ 未実施) 主な実施内容: バッハ・コレギウム・ジャパンによる公開リハーサル、ジャズシリーズ、桐朋学園大学オーケストラ公演、特別支援学校特別支援学校と連携実施した「劇場から地域へつながるプロジェクト(共生社会コンサート)」、「絵ばなし寄席」での調布市手話通訳登録者等からの意見聴取と字幕・手話通訳の導入
	地域貢献活動の実施		(実施 ・ 未実施) 主な実施内容: 調布駅前クリーン作戦
	<その他評価の視点> ・省エネルギー、省資源等の取組による環境への配慮 ・市民雇用の取組 ・地域経済の発展に資する取組 など		
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)		評価(s~d)
	施設のライフサイクルコスト削減に向けた省エネルギー化を推進している中、空調・照明設備等の運用について検証・見直しに引き続き取り組むことで、更なる省エネルギー化を期待する。 桐朋学園大学との事業協定に基づく、オーケストラ公演の実施や国際音楽祭におけるプログラムへの学生参加等の地域連携による取組をはじめ、市内の聴覚障害者団体等との連携による手話通訳や字幕をつけての事業実施ほか、集団補聴システムの活用等、障害等の有無にかかわらず、誰もが公演を楽しむことのできるバリアフリープログラムの取組を推進した。		a

評価の目安(s~d)

- s: 4つの視点に関する取組以外に、地域等との連携による事業や地域貢献活動への積極的な参加などにおいて、特に優れた対応が見られる。
a: 4つの視点に関する取組以外に、地域等との連携による事業や地域貢献活動への積極的な参加などにおいて、優れた対応が見られる。
b: 地域等との連携による事業や地域貢献活動への参加などの取組が行われている。
c: 地域等との連携による事業や地域貢献活動への参加などの取組に関して一部改善を要するものがある。
d: 地域等との連携による事業や地域貢献活動への取組について、抜本的に改善が必要なものがある。

<施設所管部署における全体総括>

令和4年度は、財団基本計画を踏まえ、相互友好協定を締結しているバツハ・コレギウム・ジャパンによる公開リハーサルや特別支援学校の生徒の公演招待「劇場から地域へつながるプロジェクト」等、地域の多彩な人材、団体との連携による文化芸術の振興及び共生社会の充実につながる様々な取組が展開された。

施設管理においては、施設のライフサイクルコスト縮減及び長寿命化を図るための修繕をはじめ、コロナ禍における施設利用に関する周知及びサービスの充実等ほか、災害時を想定した消防訓練を実施するなど施設を安心・快適に利用するための適切な管理運営が行われた。

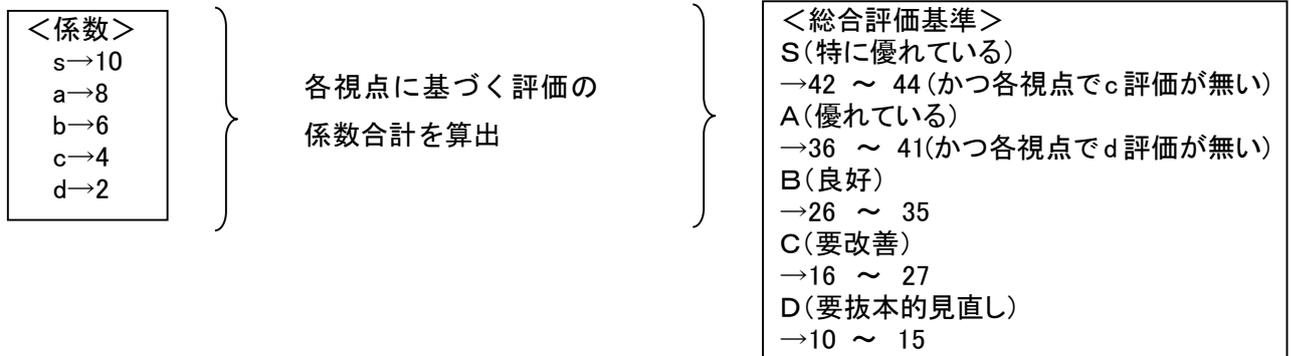
これらのことを踏まえ総合的に判断すると、新型コロナウイルスの影響を受けつつも、市との緊密な連携のもと、事業展開における様々な工夫や施設利用における利便性の向上に取り組むことで、多様な文化活動への市民参加を推進する重要な役割を担ったものと評価することができる。引き続き、市民が文化芸術に触れる機会の充実に努めるとともに、市民の文化活動の拠点として、利便性と安全性を兼ね備えた施設管理が継続されるよう指導していく。

総合評価

A

総合評価基準

以下、施設の管理運営等に関する各視点に基づく評価に対応した係数の合計で総合評価を決定する。



＜指定期間を生かした管理運営等の取組(5年間を超える指定管理期間の施設に限る)＞

※指定期間の中間年の前年を終えた時点における状況

	<p>これまでの取組実績, 成果及び今後に向けた課題認識 (指定管理者記載内容)</p>	
<p>取組内容</p>	<p>【取組実績・成果】 <施設管理について> 設備不具合の早期発見・早期対応により, 建物全体の長寿命化を図った。 また, 「調布市公共施設の開館・利用における感染拡大防止ガイドライン」に基づき, 来館者への周知や施設の利用制限等を実施した。 <事業内容について> 利用者アンケートを踏まえた内容の見直しのほか, 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を踏まえた実施手法の変更等, 柔軟に対応した。 <人材育成について> 市の施策を踏まえ, 関連分野と連携しながら文化芸術振興に向けた取組を推進するアートマネジメント人材を育成するため, 文化・芸術分野の実務研修や職層に応じた研修を体系的に実施した。 <収入確保, 経費縮減について> 助成金等の獲得とあわせて, 寄附金を確保したほか, 電力使用量の削減等による経常経費の縮減にも積極的に取り組んだ。</p>	<p>【今後に向けた課題とその対応】 <施設管理について> 調布市による今後のグリーンホール整備方針を踏まえて, 適切な維持管理に努める。 <事業内容について> 市民が集いまちに活力をもたらすとともに, あらゆる人々が参加し共感できる劇場を目指して, 地域の人材・団体との連携や, 子どもたちや障害者が参加しやすい取組を充実させる。 <人材育成について> 文化芸術関連の法律や市の施策を踏まえて, 社会共生的視点を持ちながら事業を推進するとともに, 経営管理に関するスキルを備えたアートマネジメント人材を育成するため, 文化・芸術分野の実務研修や職層に応じた組織力・人材力を強化する研修を体系的に実施する。 <収入確保, 経費縮減について> チケット・参加費収入の確保及び助成金や寄附金等外部資金を得るための取組を継続する。</p>
	<p>指定管理者におけるこれまでの取組実績, 成果を踏まえた市の総括及び今後の方向性 (施設所管部署記載内容)</p>	
<p>【取組実績・成果】 <施設管理について> 設備不具合の早期発見・早期対応により, 建物全体の長寿命化を図った。 また, 「調布市公共施設の開館・利用における感染拡大防止ガイドライン」に基づき, 来館者への周知や施設の利用制限等を実施した。 <事業内容について> 利用者アンケートを踏まえた内容の見直しのほか, 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を踏まえた実施手法の変更等, 柔軟に対応した。 <人材育成について> 市の施策を踏まえ, 関連分野と連携しながら文化芸術振興に向けた取組を推進するアートマネジメント人材を育成するため, 文化・芸術分野の実務研修や職層に応じた研修を体系的に実施した。また, 市との連携の下, 組織の活性化及び市民サービスの向上を図るため, 目標管理型人事評価制度を正式に導入した。 <収入確保, 経費縮減について> 助成金等の獲得とあわせて, 寄附金を確保したほか, 電力使用量の削減等による経常経費の縮減にも積極的に取り組んだ。</p>	<p>【今後に向けた課題とその対応】 多くの市民が安全・快適に利用できる文化施設であり続けるために, 建物・設備の日常点検をはじめ, 適切な修繕を継続していただきたい。 事業運営では, 市内の聴覚障害者団体等との連携による手話や字幕をつけた「絵ばなし寄席」の実施や特別支援学校の生徒を招待し, 楽曲の鑑賞や手拍子による参加を通して地域の身近な施設で音楽を楽しむ文化体験を提供したコンサートを実施するなど, 共生社会の充実に向けた特徴的な取組とした。また, 一部施設を新型コロナワクチン集団接種会場としたほか, 市と災害時における協力に関する協定を締結し, その協定に基づく訓練を実施するなど, 施設管理者として市と連携した取り組みを実施している。 今後も, 継続的にアートマネジメント人材の育成に取り組み専門性を活かすほか, 市民の文化芸術活動の更なる活性化につなげる取組に期待したい。</p>	